

# ¡Hola, amigos!

第075号

(RとNの Cádiz からの手紙)

皆さんこんにちは。これはHPというより、私達の近況をお知らせする手紙のようなものです。そのつもりでお読みください。

更新は毎週、日本時間の金曜朝03:00時から07:00時の間に実施します。

臨時休刊の場合は、なるべくその前の週にお知らせします。

なお、バック・ナンバーは最近三号分のみとし、それ以前のは順次削除します。

では、今週号へどうぞ。 2005年08月26日 カァディスにてR y N

---

## ☆今週号のトップヘジャンプ

---

現在有効なバック・ナンバーは074号(08月19日)、073号(08月12日)

072号(08月05日)の三週分です。各週のトップにあるボタンからどうぞ。

---



**\*今週号\*** No. 075 (2005年・第35週) 08月26日更新

## 「カァディスのハポネス」の巻

皆さん、こんにちは。

夏休みもいよいよあと少しですね。この手紙の読者で自分が夏休み中という人は殆どいないと思いますが、良かれ悪しかれ何らかの形で学校の夏休みに影響は受けていると思います。早く学校が始まればいい、と思っている人も多いはず。

私たちも9月になることを待っているほうです。浜の人出は勿論、どこへ行っても人の多い夏の季節は私たちにはあまりうれしくないのです。自分自身は365日夏休みですからね。勝手な言い分。

いままで無料だったカァディス博物館が有料になっていたということを、先日、日本から来た若い友人に知らされてビックリしました。私たちは一昨年から今までに三回この博物館に行きましたが、いずれの場合も入館料は取られませんでした。入り口で国籍を聞かれ入場券を「貰った」のですがいつも無料でした。

博物館など興味ないという人には無用ですが、この博物館はカァディスの歴史を一目で知るには手っ取り早い方法で、私たちのお薦めの場所のひとつでした。

しかも、タダというのが何よりケッコウ。

ところが、それが3ユーロになっていたらしい。それが夏の間だけなのか、今までは無料だったけどこれから有料にすることにしたのか？ 私たちが行ったのは全て夏以外でしたが、そういえばタダでくれた入場券には料金が書いてあったような気がします。何しろタダだったのでよく憶えていません。

もともと入場無料なら「入場券をタダでくれる」というのもヘンな話ですね。入館料を取らないという方針なら、はじめっから入場券など作る必要もないわけですから。

どうもよく分かりませんが、私たちが三回タダで入った事は厳然たる事実です。しかも後の二回は同行者もいたのです。秋になったらまた行ってみなくちや。飛行機の運賃なども夏休み中は跳ね上がりますね、スペインではホテルの宿泊料も場所によっては三倍近くになります。その上Nの暑さ嫌いもあって、夏の日中はうちの中で風に吹かれているのが一番のようです。

\*

今年の夏は、ではなく、今年の夏も、ですが、相変わらず欧州各地は異常気象のようです。天気の話になると毎回同じセリフになってしまいますが、もはやナニが異常でナニが正常か分からなくなった感があります。

平年並みなんていう天候はもうないんじゃないかと思うぐらいあちこちで変な天気になっています。スペインでも大干ばつで農作物に大きな被害が出たり、断水で生活に影響が出ている地方があるかと思えば、別の地方では集中的な豪雨による水害に苦しんだり、滅茶苦茶です。

また、今年特にひどいのは、内陸部を中心に山火事や森林火災が頻発していることです。はっきりした記憶ではありませんが、7月に入ってからずっと、殆ど連日どこかしらの山火事のニュースが流れています。

お隣のポルトガルは更にひどい状態で、ニュースの映像で見るとあちは人家に近い所の森林火災が多らしく、焼け出された人達の悲痛な顔が良く出てきます。勿論これらの自然火災の何割かは人災である可能性が強く、半月ほど前、首都マドリッドに近い所でおきた森林火災はどうやら自然公園内でのバーベキューの火の不始末が原因だったとされているようです。自然公園でBBQ??? でもそういう設備を造ってあるんだからしょうがありません。

いたずらに憶測でものを言っただけですが、この国の人達の喫煙マナーを見ると人災による山火事の一つや二つあっても不思議ではありません。しかし、たとえ吸殻の投げ捨てが直接原因の山火事があったとしても、それ以前に森林全体が乾燥しきっているという事実は無視できません。南北両極の氷はどんどん溶けていると言うし、ヤッパリ地球は病んでいると言うべきか？

\*

日本にいた春の二ヶ月を除いて、私たちがカアデイスに移り住んでから、正味6ヶ月になりました。この半年間に知らない人からにこやかに声を掛けられることが度々あって驚いています。

一番最初は本屋の中で何か宣伝ビラを配っていたセニョリータ。突然、アッ、私、あなた達を知ってる、と言うんです。はじめは何を言っているんだかサッパリでしたが早口のスペイン語でいろいろ言ってくれるのを聞いているうちに、私たちも、ああ、ソウだった、と思い出しました。

私たちがカアデイスで部屋探しをはじめたとき、一番最初に飛び込んだ不動産屋に勤めていた女性でした。私たちが海の見える部屋を探していたことも憶えていて、いい部屋見つかった？と聞いてくれました。

春のタイドプールで出会って、その後、渚で声を掛けてくれたオジさんもその一人。このほか、何人もの人に同じ様に話しかけられたり、遠くから笑顔で手を振ってくれたりしたことがあります。大抵の場合はそれ以前に何か私たちがものを尋ねたとかとにかく短い言葉を交わした相手です。

ソウでない場合は、突然向こうから、あなた達は日本の人ですか？と聞かれることもよくあります。そういう人は大抵、自分自身か誰か親しい人が日本に行ったことがあって、日本および日本人に好印象を持っているという風です。

カアデイス市の人口は、16万をちょっと切るぐらいと思っていましたが、最近の資料を見ると14万3千。コレを見る限り人口は確実に減っているようです。

港以外にこれと言って規模の大きい産業はなく、観光の目玉にも欠ける。その港も、見たところそれほど活気があるとは言えず、客船が入港しても船客の大部分は近隣の有名観光地へ散ってしまう。唯一の客寄せは大西洋直面で、しかも、比較的波の穏やかな広いビーチでしょう。コレでは仕事を求めて人がヘレスやセビージャに出て行ってもおかしくないと考えられます。

それにしても、人口14万を超す町で見ず知らずの私たちに声をかけたり手を振ってくれる人がちょくちょくいるのは、それだけ私たちが目立つからではないか？Cの人はC料理店を中心にやはりカナリ的人数が住んでいると思いますが、ひよっとすると市民であるハポネスは私たちだけではないか？

私たち自身この半年間で、はっきりそれと識別できる日本人を見かけたのは、パラドールの前にいた一組の夫婦だけ。明らかにパラドールの宿泊客即ち旅行者でした。昔はカアディスにもマグロ漁船が数多く来ていた筈で、その頃は乗組員も全員日本人という時代でしたから、船の支援をするため日本の会社の駐在員がいたこともあったと思います。

いまやマグロ漁船もトロール船も日本人が関与する船はごく稀で、グラン・カナリアのラス・パルマスのように、一時は日本漁船の一大基地だったところも火の消えたような状態です。その当時は駐在員を置いていた何社もの日本企業は殆ど撤退したと聞いています。領事館だけは残っていますが開店休業でしょうね。

コスタ・デル・ソルの各都市やセビージャではEU諸国は勿論日本人住人も決して珍しくありませんし、旅行者としては当然それ以上多くの人が通過します。

けれどもカアディスではどうも住民としてのハポネスは私たちだけらしい。今年年末には第二回目の居住許可の更新申請をするので、住民票を取りに行かなければなりません。そのとき市役所でこのことを聞いてみようと思っています。

先週、私たちが買い物の途中カートを引いて遊歩道を歩いていると、向こうからニコニコと笑いかけて近づいて来た中年の男性がいました。誰かなー？ 私たちに向かって笑いかけてるんだろうか、見たような顔ではあるなと半信半疑でした。

いよいよ近くになると、彼は手を上げて、やあ、この間旧市街で会ったネ。それでやっと思い出しました。一月ぐらい前、私たちが旧市街を散歩しているとき、地図を見ながら歩いていた私たちと路地の角で出会い頭にぶつかりそうになり、お互いにペルドネ、ロ・シエント（失礼、ゴメン）と声を掛け合った相手でした。その数分後、偶然また彼と今度は車道をはさんで行き違い、手を振りあったのです。遊歩道で会ったとき、彼がシラン顔で通り過ぎたら、私たちは多分彼を識別できなかったでしょう。でも彼には遠くから、私たちだ、あのハポネスだ、と分かっていたんですね。私たちが街で見知らぬ相手に笑顔で手を振られたり話しかけられたりするの  
は多分こういうことだったんでしょう。

私たちの眼にはスペインの人達はどれもこれも濃い顔としか映りませんが、向こうから見ると私たちはカナリ特別な存在なのだと思います。このことは概ね私たちにとつ

てはいい方向に作用することでしょう。ただし、金輪際悪いことはできません。

Cの人達には世界中どこでもカナリ的人数に出会いますが、閉口するのは、その殆どの場合ガン飛ばされることです。向こうはそんな気はないのかも知れませんが、

アノ切れ長の眼でギョーッと睨まれるとあまりいい気分ではありません。

西洋人がハポネスも含む東洋人の細い目を気味悪いと感じるのも分かる気がします。

まん丸眼のほうが断然愛嬌があることは確かですね。

ガンを飛ばされて睨み返すのも大人げないし、眼をそらすのはもっとシャクだし。

ソウかといって、あっちからは睨まれているのに、こっちは柔らかく包み込むような視線を返すというのも至難の業です。何か名案はありませんかネー？\*\*\*

---

## 「我が家のハーブ園」の巻

---

香草のタグイは二人とも何でも大好きです。

エライ料理研究家の先生が「初めは悪臭」と言うくらいのコリアンダーでさえ、「初めから」めっぼう気に入りました。

春の一時帰国の最終日、成田空港の近くに住む友人宅で一晩厄介になり、翌日、近所のハーブ園で昼食をご馳走してもらいました。そのときハーブ園のマスターにハーブについての諸々を教えてもらいましたが、残念ながらコリアンダーは料理に出せる程の量はなく、テスト栽培の苗の一本を持ってきて皆に見せてくれました。

マスターはコリアンダーの本格栽培に関心を持っているようでしたが、何しろ独特の香りなので一般ウケは難しく本気で乗り出すのは躊躇している風でした。

マスター自身も「カメムシの匂い」なんていうくらいですから。まあ、日本的な料理には向かないことは確かです。でもこれセリ科なんだから絶対合わんというもんでもないか。日本のセリだってカナリ強烈ですよ。セリは食べられない、と言う人もいるかもしれない。勿論私たちは大好きですけどね。

そのコリアンダーとの最初の出会いはベトナム航路に乗っていた時でした。

(サイゴンの餛飩)フォーにも生春巻きにもツキ物で、大抵の店は好きなだけ使っているように別の皿にてんこ盛りで出してくれました。

その船を下りてから、Nと一緒にまたサイゴン(ホー・チ・ミン市)に行きましたが、彼女もコリアンダーには何の抵抗もなく、すんなり受け入れ。

ベトナムではドクダミの葉がナマでついてくる料理まであり、さすがにコレばかりは旨いとは思えませんでした、二人とも大抵のものではビックリしません。

そのコリアンダー、スペイン語ではシラントロですが、前のベナルマデナでは安く売っている店が近所に一軒あって随分重宝しました。安かったので野菜炒めにも大量に刻み込むのが常でした。広辞苑には南ヨーロッパ原産とあるし、コレはスペインでは簡単に買えるんだあー、と思い込んでいました。

ところが、カアディスへ引っ越してからは大違い。あちこち散々探し回った末やっと一軒だけ売っているところを見つけたんですが、それは例のデパート・チェーン直営の大型スーパーで、とても高い値段設定でした。薬味にならともかく、炒め物なんかにはトンデモナイ、日本で売ってるのと同じ位、冗談ジャネーヤ、の値段です。

ナントカしなきゃ、と思いましたが、ひよっとしたら時期が悪いのかとも思っていました。私たちが探しまくっていたのは真冬ですからね。そのうち暖かくなったら出回るのかも知れない。

5月末、日本から帰ってくると、カアディスはもう殆ど夏。それでもやっぱり例の大型スーパー(HIPER COR=イーペル・コル)にしかありません。

もう、こうなったら自分で作るしかありません。広いベランダがある部屋を見つけたら、と、以前、娘に送ってもらっていた種を蒔いてみました。

大成功。さすがに南ヨーロッパ原産と言うだけあって、園芸などトンと縁がなかった私たちが育てたにしては上出来でした。育てた、と言っても、ただ水をやるだけ。

それにしてはけっこう勢いよくできているでしょう？

食事のたびに摘みに行って、今日はちょっと切りすぎたかなと思っても次の日にはまた元気よく伸びています。一年草ですから花が咲き始めたらおしまいなんでしょう。

そしたらまた蒔きなおいしです。多分周年栽培可能ではないかと思ってます。



次は例の迷いカナリヤがめっぼう気に入ったミント。これはその後細かい虫がついてしまったので軸から全部切り取ってしまいました。また生えてくることを期待していますが、ダメだったら小さな鉢植えを買ってきて植え替えるつもり。



最後は日本から帰るとき密輸入した山椒。密輸入とはオオゲサですが、申告をしなかったと言うだけのこと。関税法には触れないが、植物検疫法に照らすとちょっとどう



かな？というところ。 まあ、でも根っこの土はきれいに洗い流して脱脂綿でくるんできたし、うちの中で鉢に植えているだけですから実害はゼロ、の筈、ということで勘弁してもらいましょう。

友人宅で貰った実生の若木と市販の苗あわせて12本、どれも無事根付いて五月・六月は新しい芽も次々でるし、写真の通り至極元気でいい調子でした。

7月に入って少し勢いがなくなっはきました、まだ何とか。ところが8月になるとだんだん弱ってきて、今や半分以上は立ち枯れ状態です。

藤沢にいたときも、庭に何本も植えていましたが、夏過ぎると葉が焼けてきて次々と落葉してしまったのを憶えています。特に日当たりのいいところは落葉が早かったようでした。それにしても8月中に枯れてしまうのはちょっと早いと思っています。

来年の春に新芽を出してくれるかどうか？ 秋冬を通じて水遣りはどうすればいいのか気がかりです。どなたか鉢植えの落葉植物の秋冬の管理をご存知の方、教えてくださいませんか？



先日来、大葉の種を蒔いて発芽を待っているんですが、どうもコレは失敗だったようです。種が古かったのかも知れません。今度は別の新しい種を蒔いてみるつもり。

来春、山椒の新芽が見れたらうれしいですが、折角の木の芽があっても掘りたての筍がなくちゃ価値も半減です。また芽を出してくれたら筍でも探すか……。\*\*\*

---

## 「国有鉄道の怪」の巻

---

日本国有鉄道がJRとなって久しいですが、サービスの形態はカナリ変わったものの体質改善はさっぱりじゃないか。組織の風通しも最悪のような気がしてなりません。

例えば、私たちが住んでいた町之最寄の駅。まず気に入らんのはアナウンス。

「○番線に電車が参ります、危ないですから……」。あれっ、もう来たのかと思うと何のこた一ない通過電車です。これなど「参ります」「通過します」の二種類を用意しておけば済むことで、そうすれば階段を降りかけている人などがアセル必要もないのです。現に隣の駅はソウ使い分けてました。部内の誰かが気付いて進言すればいいこと

だと思いますが決してそうはならない。私たちがいた間ついに変わらず。

例の春の大事故の時も、後になってアレはもともと無理な運行だった、なんていう話が内部からもポロポロ出てきましたね。時既に遅し。

「緑の窓口」の係員などにも随分横柄な、およそ旅客に接することでメシを食っているとは思えない態度の人がいました。、大部分の人は正常なのに、一人か二人にそういう横柄な「乗せてやる」的態度を取られると、全体がそういう印象になってしまうのは仕方ありません。何故JRは緑の窓口業務を女性に開放しないのか？ 出札業務に男性の腕力がどうしても必要だとは思えませんよね。出札窓口に限らず、JRには女性職員の数が絶望的に少ないんじゃないでしょうか。JRで女性が職場進出しているとはっきり私たちの印象に残っているのは、京都駅の案内係だけです。男の職業の最

たるものだった船員社会でさえ女性乗組員を採用するご時世なのに。

旅客に直接接触しない上層部は、緑の窓口よりもっとひどいんじゃないか。春の大事故の後、数々の記者会見で、そのことを垣間見る思いがしました。犠牲者の家族でな

くとも腹立たしく感じたかたが多いはず。

悪口ばかり言ってきましたが、日本国鉄は、そのサービス精神や時々起きる大事故

は別として案内表示だけはかなり良かったと思います。

スペインで今まで私たちが利用してきた路線は全体のごく一部分だけですが、どうもこの国鉄はサービス精神もシステムも、ともに感心できません。親方「ヒノマル」的組織はやっぱりだめだナー。マズ、次の写真を見て下さい。



これはカアディス駅の出札窓口ですが、何か感じませんか？ 「緑の窓口」しか知らない世代の方はナニがヘンなの？と思うかも知れませんが、券売機などなかった昔の国鉄の出札窓口の上には必ず運賃表が掲げてありましたね。現在のJR各駅には必ず複数の券売機があってその上には必ず運賃表がある。各私鉄だってみなソウです。ここには券売機は今のところありません。ホームにおいてありますが電線が取り付けられてない、従って使用不能。だから近郊線も、(中距離)地方線も、遠距離の全席指定の特急も、切符は全てこの窓口で買わなければなりません。でも運賃表は全くなし。この時間は午後6時ちょっと前、即ちマトモな人はやっとシェスタから起きたばかりです。ここに並んでいる人はマトモにシェスタも取らないで暑い昼下がりをつらつらやってきた人達です。勿論その写真を撮った人も、ですけどね。

そして、ちょっと見にくいですが2番窓口は VENTA ANTICIPADA=前売り、3番窓口は SALIDA INMEDIATA=即出発=次の電車、です。勿論両方とも男性職員。

前売りは当然当日のじゃないからいくら時間が掛かろうと待ちあいいんですが、三番窓口はソウはいきません。モタモタしてたら次の電車出ちまうじゃないですか。この4人の関係は、ここについてから写真を撮るまでの10数分間全く変わらずでした。赤シャツは延々と何かを聞いていて、窓口のちょび髭も延々と答えています。黄シャツはジッと動かず。これは良く見かける光景で、券売機もない運賃表もない、ナイナイづくしですから、買うほうだって色々聞きたくもなります。黄シャツの女性はイライラしながらも先客が赤シャツ一人だけなので次は自分とジッと我慢してるのでしょう。そして自分の番が来たら負けずに延々と聞いてやろうと思っているに違いない。多分。窓口は言うなれば旅行相談所か？

だからこの駅で電車に乗ろうとしたら、果たして何分前に駅に行けばいいかシカとは言いがたいのです。なんでもなければ拍子抜けするくらいあっさりと待ち時間なしに切符を買えるかもしれない、まあ、殆どの場合ガラ空きで誰もいないんですが、いつも必ずソウだとは言えないのがツライところです。ガラ空きか、長蛇の列か？



次は同じ出札窓口ですが、私たちの最寄り駅エスタディオです。ここにも運賃表はありません。この駅は本来セルカニィアス(近郊線)の駅ですが一日に上下各三本レヒオナル(中距離地方線)の電車も停まります。

そして、ここには近郊線専用の券売機はあって、ちゃんと動いています。が、誰も使いません。いや、そんな筈はないんですが、私たちは自分が買うとき他の人がコレを使っているのを見たことがありません。今、窓口で切符を買っている二人も荷物の少なさから見て、多分近郊線区間内の移動だと思われませんが、券売機など目もくれずまっすぐ窓口、です。券売機の位置はカメラの後ろ、窓口の筋向いです。

この現象はここに限らず、ベナルマデナのときもよく見かけたことでした。券売機の前はガラ空きなのに窓口は延々長蛇の列。私たちは常に券売機利用ですから行列の人を横目で見てさっさと切符を買うのが常でした。券売機が故障で仕方なく列のシッポにつくこともしょっちゅうありましたけどね。

なぜ券売機が嫌われるか？ 一つには券売機の使いにくさも原因と言えるでしょう。



これが券売機。一台しかありませんが、使う人は稀だからピッカピカ。機械そのものはタッチパネル式の最新式。ですが泣き所はその使いにくさ。画面を三回換えて小銭を入れてやっと切符が出てくる仕組みです。



最初の画面。マズどういう切符を買うか、例えば大人の片道とか子供の往復とかのボタンをタッチします。すると次の画面に変わります



ここでは行く先を選択し横のボタンをタッチ。この路線の行先駅はたった11しかありません。行先を指定すると最後の画面に変わります。



最後の画面では、左の枠内に自分がどういう切符を選択したかの確認が出ます。そして真ん中が金額。その上は同じ切符を何枚欲しいかの表示。プラス・マイナスのボタンで選択します。この画面では一枚ですね。そして指定の金額を上のスロットに入れると下のジュースの自販機にあるような大きな口に切符が落ちます。

しかし、この反応が実に遅く、気の短いRなどは機械が故障してんじゃないかと思うくらいのタイム・ラグの後ポロッと出てきます。お釣が出てくるのは更に遅れて、思わず券売機を叩きたくってしまう頃やっとなチャリンです。

忙しい日本の皆さんには信じられないようなユックリ・ペースです。その代わり、目が不自由な人でも買えるように点字や音声案内の配慮はされていて、そういう人にはこのユックリ・ペースがいいのかも知れません。しかし、そういう人には画面は不要で、右側の音声案内ボタンを押して点字のキーパッドを操作するのだから、何故こんな三画面の必要があるのか？ 一画面では処理できないものでしょうか？

ああ、それからもう一つ券売機が嫌われる理由、お釣がマトモに出る保証がナイ。



切符の買い方でもう一つの不可解は、私たちがセビージャへ行く度に、取られる運賃も違うし、受け取る切符も違うということ。

上の写真は去年始めてエスタディオの駅からセビージャ行き中距離線レヒオナルに乗った時の切符です。この時の電車は前に言った一日三本エスタディオに停まるものの一つでした。近郊線区間ではないので勿論窓口で買いました。

するとこの通り一人に二枚宛の切符をくれました。右の二枚はエスタディオ～セビージャ間の中距離線の往復切符、左の二枚は自動改札機通過専用の近郊線の切符。

この駅エスタディオは本来近郊線の駅で改札口があります。そして中距離線の切符では自動改札機を通過できないので改札機通過のためだけに左の切符をくれたんです。当然コレには運賃は表示されていません。この説明は明快で、十分納得いくものでした。今考えてもコレが一番合理的且つ正しいと思います。

近郊線でも無人駅には当然改札口などないし、中距離電車だけの駅にも普通改札口がありませんが、近郊電車と中距離電車の両方が停まる駅は近郊線専用のホームにだけ改札口がある所もあります。要するにはっきり決まったパターンはナイということ。だから中距離線から近郊線に乗り換えた後改札機のある駅で降りようとする、改札機を開けられないという困ったこととなります。正規の運賃を払っているにも拘わらず、です。ここで念のためセビージャ迄の位置関係を言うと次の通りです。



カアディス～エスタディオ～サン・フェルナンド～～～セビージャ。このうちカアディス～サン・フェルナンド間はカアディス近郊線と中距離線の併走区間です。

\*

二回目、今度はエスタディオには停まらない中距離線の電車に乗るためエスタディオから近郊線でセビージャ方面の途中駅サン・フェルナンド迄行って、そこで中距離線に乗換えてセビージャへ。そういう経路を言うと窓口でくれた切符はやはり4枚。ところが、今度は4枚は4枚でも上の写真のキップと同じではなく、左の2枚に相当するのは近郊線エスタディオ～サン・フェルナンド間の往復運賃付き、そして右の2枚に相当するのは中距離線カアディス～セビージャ間往復運賃付き（額は前に買ったエスタディオ～セビージャ往復と同額）。

しかも、中距離線用の切符は大型の前売切符と同じ用紙にプリントしたものでした。このときは中距離線の運賃システムを知らなかったけれど、コレなら始発駅カアディスに戻って乗っても同じことになるなと甚だフに落ちませんでした。しかしモタモタ文句を言っていると電車に乗れなくなってしまうので仕方なく全額払いました。

結局、エスタディオからサン・フェルナンド分は二重に払ったことになります。

\*

三回目、今度も二回目同様エスタディオには停まらない中距離線電車にサン・フェルナンドで乗り換えです。今度はまず、エスタディオの券売機でサン・フェルナンド迄を買いました。そしてサン・フェルナンドの窓口でセビージャまでの中距離線切符を買ったのです。

その結果、サンフェルナンド～セビージャでも、エスタディオ～セビージャでも中距離線の運賃は同じということが分かりました。しかし近郊線エスタディオ～サン・フェルナンドの運賃は既にエスタディオの券売機に入れたのでその分は損、二重払いということになります。

\*

四回目、今度は始発駅カアディスでセビージャ行きを買いました。この中距離線の運賃はサン・フェルナンドで買ったのと同じでした。勿論エスタディオからも同じ。こうしてこの三駅どこからでもセビージャ迄の中距離線運賃は同じということが分か

りました。運賃表さえあればこんなこと実に簡単に分かるのに……。そして二回目のエスタディオ駅の窓口係員の間違いもすぐ正せるのに……。

なお、カアディス～セビージャ間の所要時間は約一時間45分。今の日本ならこのくらいの距離で座席指定でなければ全て券売機で済みますね。私たちが子供の頃は券売機なんてありませんでしたが、運賃表はあったと記憶しています。

だから、分からなきゃ、窓口で何でも聞けばいいじゃないか、なんででしょうね。ところが、人にものを聞くのが大嫌い、日本語でだって滅多なことではひとに聞くことをしない人間が、スペイン語でしかもエラそうな窓口職員に何かを聞くなんてトンデモナイ。でもスペインの人は延々と聞いています。一体ナニを聞いているのか？

\*

一番初めのケースでエスタディオ～セビージャ間の中距離運賃しか取られなかったのはなぜか？ こうなると全く当たり前のこのことが逆に大いなる疑問になります。タダ一つ思い当たるのはそのときの中距離電車はエスタディオに停まったから。近郊線電車には乗らなかったから、だから中距離運賃だけでよかった？ しかし、同じ国鉄線の同じ運賃区間の中間駅で乗り換えるのに、そこまでの近郊線運賃を別に二重に取るナンテ、どう考えてもおかしいですね。やはり一回目が正解としか思えません。運賃表を掲示しないのはミスを指摘されないようにか、とカングリたくなります。

更に更に、カアディス駅でセビージャまでの前売り往復券を買ったときでした。窓口のオジは、往復とも電車を指定しなければイカン、と言うのです。全席自由の電車ですよ、往路を指定しろ、はまだいいとしても、復路まで指定しろ、なんてどうかしてます。前の写真の四枚の切符のうち右二枚には復路は15日間有効と書いてあるんですよ。「15日間有効」、勿論その間はイツ乗ってもいいに決まっていますね。この切符は当日売りですが、当日売りならどれに乗っても良くて、前売りなら往路はともかく、復路も指定しなきゃならないなんて馬鹿げてると思いませんか？

\*

長くなりました。ほかにも色々指摘することが山ほどあるんですが、この辺でやめときます。なにしろ、また、どうしても「乗せて頂く」必要がありますからね。\*\*\*

---